

吉田豊三郎さん

旬なひと

感謝を伝えたい!

手作り竹ぼうき 360本を寄贈



「行方市に少しでも恩返しをしたい」との思いから、行方市内の幼・小・中学校に手作り竹ぼうき360本をプレゼントしてくれた、手賀地区の吉田豊三郎さん（81歳）を紹介いたします。

寄贈を始めたきっかけは?

市にお世話になっていて、少しでもお返しがしたくて始めました。4年くらい前から、毎年手賀小学校に20本ずつ贈っていたのですが、私も81歳になり、そろそろ作れなくなるかと思いついて、今回市内の幼・小・中学校分を寄贈しました。

いつから作り始めたのですか

材料調達などの準備は昨年からです。作り始めたのは今年の春からです。妻の介護があるので、時間を見て少しずつ作りました。

竹細工との出会いは?

小さい頃から親が竹細工をする姿を見て育ち、自分も竹細工職人になるものだと思っていましたから、15歳から仕

事を始めました。若い人を5〜6人雇っていたこともありましたが、プラスチック製品が主流になると、竹細工の需要が減り、みな職替えをしていきました。私も40歳代には、仕事を車の部品製作にきりかえました。

竹細工では、どんなものを作っていたのですか

農業用の米を入れるざる、いわゆる「丸ざる」や「めどかこ」、また漁師が使う籠です。露ヶ浦で捕れたえびやこりを籠を使って振るい分けしました。

竹ぼうきの作り方は?

まず作成する前の年に竹枝を切り、乾かします。春になると自然と葉が枯れて落ちてくるので、半分ほど落ちたら

ぼうきの作り方は他にもありますか?

作り方は何通りもあります。私の手法は「からかさつくり」と言います。作る工程でからかさのような形になるんですね。これは、手早くできる実用的な作り方です。国鉄時代には、貨車の掃除に竹ぼうきを使ったのですが、岩間で大量にこのぼうきが作られたため、「岩間ぼうき」と呼ばれるようになった、有名な作り方です。

他にも、小さな枝を幾重に

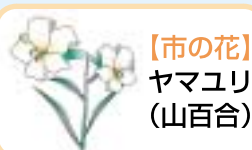
全ての葉をしごいて落とします。このときにタイミングよく葉を落とすことができれば、ちょうどよい弾力のある枝に仕上がります。

この枝を大・中・小と、三通りの大きさに分けて切り、束ねておきます。

まず小さい枝の束を柄竹（えだけ）に取り付け、その上に中くらいの枝、最後に大きな枝をつけ、三重にします。



9月14日 坂本市長より感謝状が贈られました



【市の花】
ヤマユリ
(山百合)



【市の木】
イチョウ
(銀杏)



【市の鳥】
シラサギ
(白鷺)